

今秋、起こりうる首都圏水没の危機

警鐘
レポート

高気圧の蓋がとれ、

ゲリラ雷雨、線状降水帯、

猛暑の次は 超巨大台風が発生

「未曾有の大豪雨」が やってくる

真っ黒な雨雲に局地的に覆われ、ゲリラ雷雨の柱が立つ東京都心部（15年9月）。今秋も同様の雨雲が、何度も都心の空で見られることだろう

7月はゼロ。今年は台風が少ない、そう感じている人は多いだろう。だが、本番はこれから。しかも、例年以上に強大だという。台風研究を行っている横浜国立大学教授・筆保弘徳氏が語る。

「いま、日本近海の海面水温は平年よりも2〜3℃も高く、広い海域で30℃を超えています。これは何十年に一度と言え、異常な状況。晴天が続いているので、高温になっているのです。海面水温が高いほど、台風は大きく発達し、日本に接近してきても衰えにくくなります。フィリピンなどを強い勢力のまま襲う台風がまさにそうであり、同じことが日本で起きることになります」

昨年9月9日、関東では過去最強クラスの大台風15号が千葉県に上陸し、首都圏に記録的な暴風をもたらしたことは記憶に新しい。筆保氏はこう続ける。

「昨年、15号が日本に来たときよりも、今の海水温の状況は悪いと言わざるをえません。しかも、雲の動きを見ると、台風はいつ発生してもおかしくない。

現在は太平洋高気圧が日本付近を覆っている。台風はなかなか向かってこられない。ただし、これは日々変わる。太平洋高気圧が少しでも動けば、風向きが変わり、台風が北上してきます」

巨大台風が日本列島に上陸するのは、時間の問題である。立命館大学教授（自然地理学）の高橋宇氏はこう指摘する。

「紀伊半島から房総半島まで、近海の海面水温が昨年一昨年よりも高く、東海地方や関東地方に上陸する台風は勢力を落と